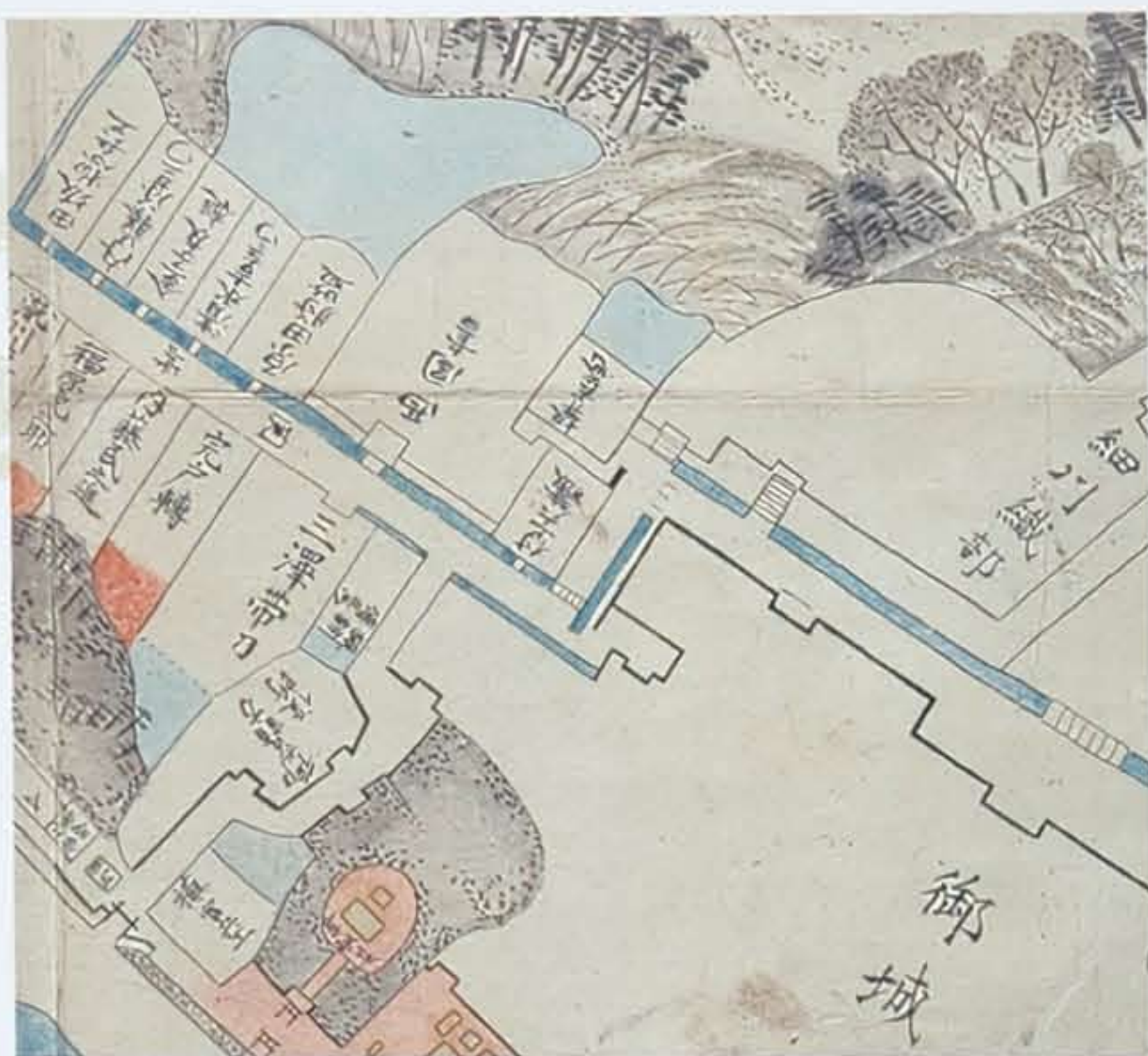


# 長府庭園



弘化三年屋敷割図・部分(下関市立歴史博物館蔵)

## ■西家について

西家の系図によると、同家は奈良時代前期の公卿藤原房前を祖とします。元々は関東に居住しており、「児玉」や「荘」などを名乗っていました。平安時代末期の源平合戦で武功を挙げた荘家長は、領地として与えられた備中国(現在の岡山県西部)に移住。戦国時代になると一族は「穂田」を名乗ります。その後、戦国大名毛利元就の配下に入り、元就の四男である毛利元清の家臣となって「西」を名乗り始めました。

西家としての初代は西清房で、朝鮮出兵などに参戦しています。

江戸時代になると、西家は、元清の二男である毛利秀元が興した長府藩の家老となりました。家老西家の屋敷は、長府藩主居館近くのこの場所にあります。

明治時代以降、西家の屋敷地は、実業家中部幾次郎の邸宅などを経て、現在は長府庭園として整備・公開されています。

## ■西運長について

西運長は、幕末の西家当主です。

萩藩士児玉邦行の三男として生まれ、天保十三年(一八四二)に長府藩家老西義定の養子となり、その後西家を継ぎました。

幼少より文武に秀でていたといわれ、幕末動乱の真ただ中である文久年間から慶応年間頃は、長府藩の当職を務めました。当職とは、家老のなかから選任されて、長府藩政を統括する責任者です。

また、藩外においても、禁門の変後の対応や、幕長戦争を前にした藩論統一などに奔走しました。明治時代にも豊浦藩の要職などを務めました。が、明治八年(一八七五)、長府において亡くなりました。

江戸時代における西家最後の当主となったため、西家の屋敷跡に整備された長府庭園は、西運長邸跡とも呼ばれています。